



2016年6月20日

早稲田大学

**大学院文学研究科、文学部、文化構想学部に
「中東・イスラーム」関係の新コース・新プログラムを設置**

早稲田大学（東京都新宿区、総長：鎌田薫）では、2017年4月1日より、大学院文学研究科内に「中東・イスラーム研究コース」（修士課程・博士後期課程）を、そして文学部に「中東・イスラーム研究コース」、文化構想学部の多元文化論系内に「中東・イスラーム文化プログラム」を新設いたします。これは Waseda Vision150 の実現に向けた抜本的な研究・教育改革の一環であり、早稲田大学がこれまで培ってきた中東・イスラーム研究を礎に、社会的要請の高まるこの分野の研究・教育に本格的に乗り出す、大きな一歩でもあります。

大学院は、国際的な研究発信と本格的な研究者養成を意図したものであり、学部は中東・イスラームの専門的な知識を身につけ、グローバルに現代社会で活躍する人材や将来の研究者育成を目指します。

大学院文学研究科「中東・イスラーム研究コース」の新設について

早稲田大学は大隈重信の時代から、中東やイスラームに理解が深かったと評されますが、これまでは中東・イスラームについて教育を行う専門の部門組織を持たずに来ました。しかし、現代社会における中東・イスラーム研究への要請は高まるばかりであり、学生と社会の双方から、本格的な教育部門の設立が切望されていました。そのため、このたび Waseda Vision 150 による大きな展開の中で、「中東・イスラーム」の本格的な研究・教育を目指す新コースを開設することとなりました。学部から大学院博士後期課程まで一貫した方針のもとで学ぶことができるコースの新設です。

なお、コース名にある「中東・イスラーム」の「中東」の部分は、同地域内の非イスラーム教徒も研究対象に含めることを意味し、「イスラーム」の部分は、中東に限らず世界中に展開するイスラーム関連の事象もまた対象とすることを示しています。中東現地と欧米などの研究機関と早稲田大学を連結させるトライアングル体制で、グローバルとローカルの双方向から研究・教育に邁進します。

1. 理念

本コースは、独創性の高い研究によって国際発信を続ける本格的な研究者の養成を目指します。同時に、中東やイスラームについて広く深い知識を備えた上で、国際社会に出てグローバルに活躍する人材の育成も意図しています。

2. 特長

(1) 現地・欧米研究機関と構築する「トライアングル研究・教育体制」

欧米の大学・研究機関との学術教育交流や国際合同研究を強く推進すると共に、中東現地の大学・研究機関との学術教育交流を深めます。それによって、現地と欧米を早稲田大学と結ぶトライアングル体制を構築し、グローバルな展開とローカルな知の集積の双方向から研究・教育を実践します。

(2) 国際的研究の推進と発信力強化

国際的に高く評価される研究を推進するため、新たに第一線の研究者を招き、5人の教授・准教授陣と非常勤スタッフによって、コースを開始します。そして、海外の大学・研究機関と研究・教育の協力関係を強化し、共同研究や国際学会の開催なども行ないます。

(3) 海外留学と語学教育

学生には、国際的な研究遂行のためにも、とりわけ海外留学や頻繁な国際学術交流が強く奨励されます。そのための語学教育にも力を入れます。

(4) 学部から博士号まで一貫した教育方針

文学部と文化構想学部の2学部と、大学院文学研究科(修士課程・博士後期課程)の、あわせて3カ所に「中東・イスラーム研究」のコース・プログラムを開設することによって、学部1年生から博士号取得まで、一貫した方針のもとに本格的な指導を受けることができます。

(5) 中東・イスラームの諸分野に幅広く対応

本研究コースの教育スタッフは、アラブ研究者を中心に、トルコ、イランの専門家から構成されます。さらに、非常勤講師によって、南・東南アジア、アフリカ、世界のムスリム社会などにも、広く目配りする予定です。

(6) イスラーム地域研究の成果を活用

早稲田大学には、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の「イスラーム地域研究」プログラムを中心拠点として10年間運営してきたイスラーム地域研究機構の実績があります。その成果を活用しながら、さらに新たな時代に対応した研究スタイルの構築を目指します。



文学部「中東・イスラーム研究コース」、文化構想学部「中東・イスラーム文化プログラム」(多元文化論系)の新設について

早稲田大学は、大学院文学研究科「中東・イスラーム研究コース」(修士課程・博士後期課程)設立と同時に、文学部に「中東・イスラーム研究コース」を、そして文化構想学部の多元文化論系に「中東・イスラーム文化プログラム」を新設します。これによって、中東・イスラームの本格的な知識を身につけ、社会へ出てグローバルに活躍する人材や、将来に大学院で学ぶ本格的な研究者の育成を目指します。なお、文学部の新コースが歴史研究を中心として、社会・文化・宗教についてより根元的に掘り下げるのに対し、文化構想学部の新プログラムはより今日的な観点から、グローバルな課題に焦点を当てつつ、中東・イスラームの社会・歴史・文化について学びます。

1. 理念

本コース・プログラムでは、グローバルに活躍するために必要とされる知識や、活動に資する情報とネットワークを提供します。また、広く長期的な展望と、喫緊の課題を深く掘り下げる洞察力の双方を涵養します。外国語の教育も重視し、現地中東へ赴く機会を増やし、氾濫する情報を見極めるリテラシーを養います。

2. 特長

(1) 学部から博士号まで一貫した教育方針

文学部と文化構想学部の2学部と、大学院文学研究科(修士課程・博士後期課程)の3カ所に、「中東・イスラーム研究」のコース・プログラムを開設します。これによって、大学学部1年生から博士号取得まで、一貫した方針のもとに本格的な指導を受けることができます。

(2) 海外留学と語学、国際共同研究の推進

将来、国際的に活躍する人材を育成するためにも、海外留学を非常に強く奨励し、海外との交流機会を頻繁なものとしします。また、アラビア語などの中東諸語を初めとする語学教育にも力を入れます。

(3) 現地・欧米研究機関と構築する「トライアングル教育体制」

欧米の大学・研究機関との交流を強く推進すると共に、中東現地の大学・研究機関との学術教育交流を深めます。それによって、現地と欧米と早稲田と結ぶトライアングル体制で、グローバルとローカルの双方向から教育・研究を進めます。



(4) 中東・イスラームの広い研究分野に対応

本研究コースの教育スタッフは、アラブ研究者を中心に、トルコ、イランの専門家から構成され、さらに多数の講師により、南・東南アジア、アフリカ、中央アジア、世界のムスリム社会などを広く対象として、宗教と思想、文化と芸術、現代社会、政治経済の諸分野にも目配りします。

(5) アラビア語を第二外国語とすることも可能

2017年度より、基礎外国語としてアラビア語を学ぶことも可能になる予定です。文学部「中東・イスラーム研究コース」または文化構想学部「中東・イスラーム文化プログラム」へ進級する場合、アラビア語の履修は義務ではありませんが、基礎外国語として選択することによって、より本格的かつ楽しく、将来を見据えて中東・イスラームについて学ぶことが可能となります。

<早稲田大学文化構想学部・文学部ウェブサイト>

<http://flas.waseda.jp/cms/> (文化構想学部)

<http://flas.waseda.jp/hss/> (文学部)

<http://www.waseda.jp/flas/glas/> (文学研究科)

<本件に関するお問い合わせ先>

早稲田大学 文学学術院事務所 入試・広報担当

toyama-adm@list.waseda.jp

以 上